

【公益財団法人 岡田文化財団助成事業】
〈名張市市制施行65周年記念事業〉
〈名張市観阿弥顕彰会創立50周年記念事業〉

観阿弥創座の地名張

名張薪能



日 時 令和元年 10月13日(日)

午後5時30分～

会場 名張市役所 市民広場

(名張市鴻之台1-1)

※雨天の場合 / adsホール (松崎町1325-1)

鑑賞無料
自由席

能 「野守」

出演 / (シテ) 上野朝義
(ウキ) 福王知登 ほか

狂言 「千鳥」

出演 / 茂山七五三 茂山宗彦 鈴木実

名張薪能

火入れ式

午後6時～

主催者挨拶

午後5時50分～

狂言 「清水」

プレステージ 午後5時30分～
〈名張市観阿弥顕彰会 名張子ども狂言の会〉

- 主催 / 名張薪能事業実行委員会
- 共催 / 名張市・名張市教育委員会・名張市観阿弥顕彰会
- 助成 / 公益財団法人 岡田文化財団
- 協賛 / 株式会社メイハン 株式会社アドバンスコープ
名張ライオンズクラブ 名張ロータリークラブ 名張中央ロータリークラブ
伊賀ふるさと農業協同組合 有限会社ステージコラボレーション I GA (順不同・敬称略)
- 協力 / 宇流冨志禰神社

- 問合せ先 / 名張市教育委員会 文化生涯学習室 (☎0595-63-7892)
- 公演当日問合せ先 / 【午後3時～】名張市役所 休日窓口 (☎0595-63-2110・63-2115)

- HOS名張アリーナ(名張市総合体育館)の駐車場もご利用下さい。
- 駐車場に限りがありますので、出来るだけ公共交通機関をご利用下さい。

※市民広場には、観客席をご準備する予定ですが、立ち見になる場合もあります。事前の席の確保はお断りします。尚、今回の事業開催にあたり、たくさんのご協賛をいただいた事業所様等に、招待席として一部座席を指定いたしますので予めご了解願います。皆様楽しくご鑑賞いただきたいと思います。

名張薪能事業実行委員会実行委員長

観阿弥が座をおこしたといわれている名張市小波田の静かな里にある名張市観阿弥ふるさと公園の能舞台において、毎年11月に『観阿弥祭』が開催され、名張市観阿弥顕彰会は、発足した昭和44(1969)年から、謡曲や仕舞の披露を続けてまいりました。

今年、名張市観阿弥顕彰会が創立50年を迎えることから、50年間の活動の功績を振り返ると共に、より一層能楽のふるさととして周知を図り、名張藤堂家累代の当主が愛した「能」の振興と継承に努めるため、名張薪能事業実行委員会を結成し、たくさんの協賛をいただき、記念事業「名張薪能」を開催致します。

〔公益財団法人岡田文化財団助成事業〕
名張市市制施行65周年記念事業
名張市観阿弥顕彰会創立50周年記念事業

名張薪能

午後5時30分、「プレステージ」

名張市観阿弥顕彰会名張子ども狂言の会

狂言「清水」 太郎冠者 竹島彩結 主人 福島満紀

午後5時50分

【主催者挨拶】

午後6時

【火入れ式】

【名張薪能】

狂言

千鳥

太郎冠者 茂山 宗彦

酒屋 茂山七五三
主人 鈴木 実

見 山下 守之

能

前シテ 野守ノ前
後シテ 虎侍 上野 朝義

野守

ワキ 山 福王 知登

白頭 天地之聲

同狂言 春日ノ里人 丸石やすし

大鼓 上野 義雄 太鼓 中田 一葉
小鼓 清水 時祐 笛 赤井 啓三

後見

上野 朝彦
赤井きよ子

共演

上野 雄介 今村 哲朗
伊原 昇 齊藤 信隆
前田飛南子 大西 礼久

附祝言



名張市観阿弥顕彰会

能楽の大成者観阿弥が座をおこしたといわれている伊賀小波田の地にちなみ、この文化遺産に親しみ、守り、引き継いでいくために、昭和44(1969)年に発足。今年、創立50年を迎える。
現在、会員約100名。年会費は、千円。
山中功会長を中心として、毎年、11月に「観阿弥祭」を開催。より一層能楽のふるさととして周知を図り、共に能楽振興と継承に努めるため、会員を募っている。
令和元年の「観阿弥祭」は、11月10日(日曜日)午前10時から名張市観阿弥ふるさと公園で開催。



◆清水(しみず)

主人は、お茶の会で使う水を、野中の清水へ汲みに行くよう太郎冠者に命じます。使に行きたくない太郎冠者は、「清水に鬼が出た」と嘘をついて逃げて帰ってきます。主人は太郎冠者が置いてきた秘蔵の手桶を借しがり、自ら清水に行つて探して来ると言い出します。困った太郎冠者は先回りをして、鬼の面をかぶって主人を脅します。あわてて逃げて帰った主人ですが、あまりに不思議なことが多いので、いまだ度探しに行くと……。

◆千鳥(ちどり)

付けで酒を買ってくるように主人に命じられた太郎冠者ですが、支払がたまつているため酒屋は酒を売ってくれません。太郎冠者は、酒屋を巻き込み津島祭の様子を囁しながら調子よく話し、その隙に樽に近づき持ち去ろうとしますが、酒屋にみとがめられます。何とか酒を手に入れようと、今度は、山鉾を引く様や流鏑馬などの話をしながら……。

◆野守(のもり)

鏡のない古の時代は、水溜まりで物を映す水鏡があったが、その後持ち運びのできる金属の鏡が生まれ、あらゆる物を映すため神聖な物とされて様々な信仰の対象となった。「野守の鏡」の伝説から、世阿弥が神秘的な能にしたものがある。

●能の概要

羽黒山の山伏が大峰葛城に入る途中、大和国春日野で由緒ありげな池を見て、折柄来合させた野守の老人に尋ねると、これは野守の鏡といつて自分たちの影を映す水であるが、また本当の野守の鏡とは昔鬼神の持つていた鏡のことで、その鬼神は昼は人の姿で野を守り、夜は鬼となつてこの塚に住んでいたのだと言ふ。山伏は「はし鷹の野守の鏡」という古歌を思い出しそのことを尋ねると、老人はこの野で帝の鷹狩りがあった時に、鷹の行方を見失い、水中に鷹の姿があるのを教えて行方がわかつたのを歌に詠まれたのだと言ひ、さらに自分が真の野守の鏡を持つていると物語つて塚の中に姿を消す。山伏が奇特を喜び塚の前で折ると、夜になり鬼神が鏡を持つて現れ、天上界から地獄の底まで四方八方天地を映して見せた後、大地を踏み破つて奈落の底に入る。

演目解説

★今回、市の記念事業の開催につき、宇流輩志禰神社所蔵で三重県指定有形文化財の能面2面を特別に使用いたします。